

<対策のポイント>

輸出先の残留農薬基準等に適合した栽培技術や品質保持のための最適輸送技術の導入・実証、統一ブランドの推進のほか、これらの取組と一体的に取り組む機械・施設のリース導入等、グローバル産地の早期形成・発展に必要な生産・流通・販売段階における取組を支援。

<政策目標>

農林水産物・食品の輸出額の拡大（8,071億円 [平成29年] → 1兆円 [平成31年まで]）

<事業の内容>

1. グローバル産地の形成支援

- 輸出先の残留農薬基準や植物検疫条件に適合した栽培技術、海外ニーズに即した品種・技術の導入・実証、鮮度保持輸送技術の導入・実証等、生産者・産地が抱える輸出上の課題解決に資する取組を支援します。

2. グローバル産地間の連携支援

- コスト削減やブランド化に向けた使用資材等の共通化の検討や資材の導入・実証、生産・出荷時の共通規格の作成等、産地間の連携により高い効果の発揮が期待される取組を支援します。

3. 機械・施設のリース導入の取組※

- 年間を通して切れ目無い輸出を図るための輸出拠点への冷蔵庫や検疫条件を満たすための消毒機器等、グローバル産地形成に必要な機械・施設のリース導入を支援します。

※上記1又は2の取組と一体的に実施する必要。

<事業の流れ>

定額、1/2



<事業イメージ>

海外の規制条件やニーズに適合した産地の育成



輸出先別防除暦の作成



小ぶりの芋生産のための栽培実証



長期出荷可能技術の導入実証

このほか、輸送日数別の最適温・湿度管理の実証や結露防止機能付き段ボールの導入・実証等も支援

プラットフォームの共通化・共有化で競争力のある輸出体制の構築

- ・統一ブランド推進のための共通ロゴマークの作成
- ・ダンボール等の使用資材の共通化の検討・導入
- ・生産・出荷時の共通規格の作成
- ・輸送効率化のためのシミュレーションの実施 等

(1及び2の取組に必要な機械等のリース導入)

- ・通年供給のための輸出拠点への冷蔵庫
- ・検疫条件に対応するための消毒機器 等



青果物グローバル産地の早期形成・発展により、輸出拡大